



NPO 法人 日本ビオトープ協会 (2021.04.27) ビオトープアドバイザー用 ・ 技術メモ No.13

「クマノザクラと吉野山のヤマザクラ」

NPO 法人日本ビオトープ協会
技術委員長 直木 哲

1. コロナ下での花見

昨年2月から続く COVID-19 の影響が収まるどころか、より感染力のある変異株が急激に関西から中部・首都圏へ広がり、まん延防止等重点措置から緊急事態宣言も適用され、第4波のまただ中に位置する連休前である。しかし自粛自粛が1年以上も続くとストレスも溜まり、隙間をぬって最小人数でピンポイントに自粛破りをしてみたくなる。大変不謹慎なメモであること承知である。1度目の自粛破りは3月12-14日、和歌山県へ自身3回目のクマノザクラを見に行った。

このとき和歌山県のコロナ発症は連日0人が続いていた。羽田から南紀白浜へ、そしてレンタカーでの移動は自粛破りを自己納得するに充分であった。2度目の自粛破りは4月1-2日の奈良県の吉野山の山桜である。前日京都に泊まり、朝一で吉野へ、吉野山では観桜以外店もよらず昼食も取らず新幹線で帰京した。吉野のヤマザクラは当初からの予定ではなかったが、誘いがあり一度は見ておかないと、また、インバウンドがないのは今年以外にはないというセリフが決め手になった。例年4月中旬になる見頃が異常に早まったこともピンポイント行動には幸いした。4月中旬以降では中止にせざるを得なかったであろう。というわけで2度の自粛破りの成果は在宅観桜の方に伝えねば許されるものではないと思い、メモとして記すことにした。

2. クマノザクラ

クマノザクラについては2018年No6の技術メモに書いてあるが、100年ぶりに2018年に発見された野生種である。ソメイヨシノより早く咲き、木は小ぶりで、花も小さくややピンクが混じり美しい。園芸品種ではないため、クマノザクラどうしの交配による実生はすべてクマノザクラとなる。自分は2018年、2019年と既に2回見に行っているが今年行ったのは少し異なる理由がある。2018年以前に知り合った和歌山県古座川町の樹木医に矢倉貴之さんという樹木医がいる。彼はもともと横浜出身であるが、古座川の人と結婚し、何もない所と言われたが、クマノザクラは随所にあり、クマノザクラ発見者の森林総研勝木先生の手伝いもしながら、クマノザクラで町おこしに励んでいる人である。昨年一般社団法人樹木医甚兵衛を立ち上げ代表理事として活動されている。何か自分なりの手伝いできないかと思い、少額ながらスポンサー会員になると共に、クマノザクラを知るため100本ほど苗木を購入した。そんな縁もあり、古座川町のクマノザクラを案内していただいた。

訪れた3月13日でも少し遅い時期で、本当に今年の開花は早かった。

3. 古座川のクマノザクラ

次ページに矢倉さんが作成した、古座川町観光協会のクマノザクラMAPを記載した。来年以降行かれる方の参考になればと思う。

写真1は川に面した斜面に点在するクマノザクラであるが、花の色や開花時期の違いで葉が出始めた木の差が見て取れる。写真2は既に開花が終わり赤い新芽が出始めたところである。樹齢が約100年と聞いたがソメイヨシノに比べると幹は若々しく太すぎず壮年の感じである。斜面の独立木なので葉張りがある。写真3は山道を1時間ほど登った池の脇の樹であるが、前日の風雨で散ってしまい花筏であった。写真4,5は近接しているが、5はクマノザクラで、4はオオシマザクラ等と交配したサクラらしい。開花時期が早いと言っても近くにあれば他のサクラと交配する可能性はあり得る。野生種保全の課題である。



写真1 川に沿う山の斜面



写真2 峯集落の優良木（約100年）



写真3 潤野の優良木



写真4 交配サクラ



写真5 4のそばのクマノザクラ

古座川の海側は串本であり、民謡の串本節で有名な紀伊大島も近い。紀伊大島にもクマノザクラは自生しているが、かつて薪炭林の目的で伊豆大島からオオシマザクラが移入され島内に多く見られる。実生苗はほとんど交雑種らしい。写真6は戦後の造林政策で急斜面に植えられた人工林と自然林の境界である。1本いくらで植えられたが、手入れができないほどの急斜面で、荒れた放置状態である。



写真6 自然林と人工林の境界

クマノザクラ MAP



古座川町役場 地域振興課・古座川町観光協会

〒645-4104 和歌山県東牟婁郡古座川町黒池 625-3 TEL.0735-72-0180(代番) FAX.0735-72-1858

図1 古座川町のクマノザクラMAP

4. 三重県熊野市紀尾井町のクマノザクラ

翌日は熊野市紀尾井町へ向った。古座川町は紀伊半島の南端に近く最も開花が早い。クマノザクラはその名の通り熊野を中心に和歌山、三重、奈良県に分布しているが、熊野本宮は和歌山県田辺市で、熊野市は三重県で北へ向うとすぐ奈良県の位置関係である。



図2 クマノザクラ探訪マップ

紀和町はぴったりの開花時期であった。最初に見た写真7板屋ゲートボール場前是最も遅いクマノザクラとのことであるが、早咲きが特徴と考えるとほんとにクマノザクラなのか、ヤマザクラではないのか疑問に思った。樹形もいかにもヤマザクラらしく見える。



写真7 板屋ゲートボール場前



写真8 千枚田近く



写真9 長尾の西山電話局前(約50年)



図 3 紀和町クマノザクラめぐりマップ



写真 10 丸山千枚田



写真 11 小森ダム

紀和町は小森ダムを除けば車では近距離で見られるため見学には良いところである。比較的狭い田舎の道で、今後人が増えると思いやられるが、次々と見られ楽しむことができる。千枚田も田植え前だが原風景を満喫できる。



写真 12 アップ写真



写真 13 花弁

5. 吉野山のサクラ

吉野町のホームページによると、吉野山の桜は花見のためではなく、1300年前にさかのぼり、山岳宗教と密接に結びついた信仰の桜・ご神木として保護され、献木として植え続けられてきた。秀吉の花見や多くの文人墨客が訪れ、一般庶民の吉野への旅も盛んになり、歴史や文化を通して昔に思いをはせる場所で、山全体が世界遺産に登録されている。ソメイヨシノが品種としてできる遙か前からのヤマザクラによる名所は聞いてはいたが、今まで行く機会がなかった。10年前に行った人からはやや荒れているという一言も気になっていた。

見所は多く、標高230m～350mの下千本、350～370mの中千木、370～600mの上千本、600～750mの奥千本と標高毎にあり、開花時期は例年4月中旬から下旬まで高低差により長期間である。しかし今年はサクラの開花が異常に早いため、4月はじめとピンポイントで設定した。

前日京都泊で朝7時過ぎの近鉄特急に乗り、奈良県橿原駅経由で近鉄吉野駅には約2時間である。バスに乗り上千本まで行き、更に急な道をマイクロバスで奥千本まで一気に登る。

奥千本のヤマザクラも咲き始めている。金峯神社への登りの看板に驚いた。ここは熊野本宮から吉野山・金峯神社までの修験道の道：大峰奥駆道（おおみねおくかけみち）の



図4 吉野山桜見所マップ

ほぼ終点である。標高1000m以上の道を熊野本宮からほぼ80kmの工程である。調べて見

ると吉野も熊野も吉野熊野国立公園に属し、陸域の吉野山・大峰山脈・大台ヶ原等の山岳地域、熊野本宮大社・熊野川溪谷流域及び海域として熊野灘がある。たまたま訪れることになった吉野山がクマノザクラの分布域（図5赤線）北限に近い。長い時を経れば自然状態でもクマノザクラの実生が吉野山まで分布範囲を広げる可能性が想像されたが、山脈の寒さが壁になるかもしれない。



写真14 奥千本の金峯神社へ道



図5 大峰奥駆道とクマノザクラ分布域

奥千本から上千本への下りはサクラの少ない山道である。休憩所近くヤマザクラは開花に差が見られた。微妙な微気象や、日当たり、個体差によるのであろう。



写真15 7~8分咲きのヤマザクラ



写真16 1~2分咲きのヤマザクラ



写真17 伐採跡地



写真18 竹林院桜山



写真19 シカ被害保護

少し下ると荒れた伐採跡に苗木が植えられていた。シカなどの獣害防止がされているが、高算堂跡 竹林院桜山の標識がむなしい光景である。

分水神社付近から上千本になり、カーブする道から中千本の景色が見えてくる。里山の点在するサクラと違い、群として植栽されたもので一般的には山では見慣れない景色で倒的なボリュームがあり壮観ではある。但し衰退樹が伐採されると単一林のため、空いた空間の地肌が見える。全体的に急斜面で肥沃とは思えない土壌であり、面積の大きさから維持して難しさが感じられた。



写真 20 分水神社付近から上千本、中千本



写真 21 上千本付近



写真 22 上千本付近の更新必要な空間



写真 23 急傾斜で根張りも表層



写真 24 中千本付近の終わりかけの景色



写真 25 下千本付近の残る桜と新緑

6. 終わりに

コロナ下であるにも関わらず、熊野と吉野の桜をピンポイントの時期で見てきたことになる。結果として、ヤマザクラが二度咲くといわれたクマノザクラとヤマザクラの二週間強の開花時期の違いを吉野・熊野国立公園内で経験することができた。自宅観桜の会員と今後行かれる方の参考になれば幸いであり、早くコロナ後の世界になることを願う。